

場が40%とあり、まだまだ少ないこともアンケートから伺われる。ただし、「財政的余裕があれば派遣したい」という回答と共に、参加者が少なかった事に関して「財政的に逼迫している」が半数を超える職場から回答があった点は、留意する必要がある。しかし、参加者が低かった理由の第1位に、コースの認知度が低かったこと（コースの内容を十分に宣伝できていなかったこと）が挙げられていたことは、今後、コースを再開する場合の教訓としたい。

保健所、地衛研の職員を優先し、あまった枠に国立病院や大学からも参加者を募るようにすれば、本コースのコンセプトを維持したままの再開も可能ではないだろうか。

## (12) 地域保健支援のための保健情報処理技術研修

### 1. 結果の概要

#### 1) 受講後の状況

受講による情報処理に関する知識・技術レベルの向上については、「本研修受講によって保健情報処理に関する知識が増えた」と回答した者が100%、「本研修受講によって保健情報処理に関する技術が向上した」と回答した者が95.3%と、ほぼ全員が研修受講により知識・技術ともに向上している。また、受講後の職場での業務環境については、「本研修受講前に比べて受講後に情報処理に関わる時間は増えた」と回答した者が53.5%であり、半数を少し超える回答者が職場環境の変化があったことが示された。また、「本研修受講後に自分で保健情報を整理または分析した結果を職場で発表する機会があった」と回答した者が53.5%であり、そのうち、「発表の際に本研修で学んだ内容が活かされた」と回答した者が87%であり、職場において情報処理を行う機会があった者に関しては、何らかの形で研修で学んだことが有効であったことが示された。さらに、「本研修受講後に職場で何らかの保健情報を利用して計画立案をする際に自分の態度が変わった」と回答した者が60.5%であり、そのような機会があったと答えた者のうち72.2%の者がより積極的に保健情報を利用して計画立案に関わるようになっている。

#### 2) 本研修の業務への有用性

本研修の業務への有用性については、「本研修で学んだことが現在の業務に役立っている」と回答した者が95.4%であり、大部分の受講者にとって本研修で学んだことが現在の業務に役立っていることが示された。具体的な内容としては、例えば「インターネットを利用した情報検索・収集を効果的に行えるようになり、周囲にも教えることができた」、「保健情報、統計等に関する基本的な考え方を学べたことが、日常の業務を進めていく上で、役立っている」、「図表作成、プレゼンテーショ

ン手法については大変参考になり、日ごろの業務の中でもよく活用している」、など大部分の回答者のコメントから、本研修で学んだことが具体的に日常の何らかの業務に活かされていることがわかった。ただし、一部の回答者は、本研修で学んだことを職場で活かす機会が少ないことを述べている。さらに、「総合的にみて、本研修を受講してよかったと思う」と回答したものは97.7%であり、全体として、受講者の大部分が満足する研修であったといえる。

## 2. 結果の分析

本研修を通じて受講者の保健情報処理に関する知識・技術は明らかに向上している。その結果として、職場における情報処理に関する業務に自信が持てるようになり、保健情報に関して整理・分析・発表、あるいは保健情報を利用した計画立案などに対して積極的な態度で関われるようになってきていると思われる。さらに、様々な自由コメントからは、自分自身の知識・技術の向上だけでなく、周囲から相談を受けた際に何らかの形でアドバイスなどを出来るようになってきていることがうかがわれ、本研修受講者が保健情報処理に関してそれぞれの職場で指導的立場になりうることを示された。

一方で、職場におけるそれぞれの業務の中で、異動や役職の関係で自分自身から保健情報に関して積極的に関わる機会が少なく、せっかく学んだことを十分に活かす機会がない受講者もいる。しかし、情報に基づいて合理的に保健活動を行っていくことは今後ますます重要になっていくはずであり、現在の業務の中で直接情報を取り扱う機会が少ない受講者にとっても将来的にはひじょうに有用な研修であると考えられる。

## 3. 今後に向けての提言

本研修においては、様々な情報解析の手法を学ぶことが必須ではあるが、それだけではなく保健情報の利用に関する全体的な考え方や枠組みを持てるようになることがより重要と考えている。したがって、保健情報に関してきわめて幅広い側面からカリキュラムを組んでいる。この点は、異なる業務に従事している受講者間相互理解、幅広い政策への対応などといったメリットとなっている。しかしながら、受講生のレベル、ニーズ、日常業務の内容、職種、所属機関などを考えると、研修の効率性の観点からある程度対象者を絞った研修に改編していくことも今後検討していきたい。また、受講者が各職場で保健情報処理に関して指導的立場になれるように研修終了後にも何らかのフォローアップを考えていきたい。